

に各級選出雄辯大會を開催して、大いに耕辯の實を揚げてゐるのみならず一昨年度よりは男女青年團身延中學及び吾祖山學院の四團體の聯合雄辯大會を開催するなど、着々向上の道程を辿りつゝあるのである。

因みに本部の五月以後の情報を畧記せん。

甲府太田町公園の獅子吼 五月二日より三日四日に亘り松木部長、山口龍明君、武田海正君等公衆の前に長廣舌を振ふ。

釋尊降誕會を期して 五月七八日の兩夜は例年の通り身延上町辻に立ちて大獅子吼をなす。其の人は

七日 矢谷智秀君、瀧川顯照君、近藤惠聰君、武田海正君、吉

川啓善君、山口龍明君、清水教授

八日 横山泰歡君、三木淨達君、近藤惠聰君、渡邊正教君、松

木部長

開闢會の夕 六月十六日身延山三門に於て幻燈大會、更に十七日道路布教を上町辻に。

幻燈解説者は横山泰城君(中四)、樋口寛正君(中五)、近藤惠聰君(高一)、武田海正君(高一)、塩嶋頭沾君(高三)、松木辯論部長

技士 岡本前能君(中四)

助手 工藤唯一君(中三)、福士泰量君(中三)

道路布教をした人々は、三木淨達君(中四)、田代榮正君(中五) 近藤惠聰君(高一)、武田海正君(高一)、渡邊正教君(高三)、松

木辯論部長

第一學期各級選出雄辯大會 六月廿七日迫る試験も顧みず熱

誠なる部員に依つて盛會裡に閉會す。プログラム左の如し。

閉會の辭

三木幹事

暗黒より光明へ

中一 梅溪英學君

日蓮上人を仰慕して

中二 中澤要實君

人生

中三 松井三一君

我等の迎るべき道

中四 横山泰城君

時代は斯く語る

中五 矢野鍊明君

世相を眺めて

高一 堀内義光君

東洋の平和と東洋人類の幸福は何處に

高二 方哲源君

近代文明の破綻と其歸結

高三 渡邊正教君

挨拶

部長 松木教授

閉會の辭

田代幹事

三光堂の説教 身延上之山三光堂の請に應じ、松木部長及び山口龍明師出張す、

尙此の外山内布教、特別布教等々擧ぐれば多し、餘り煩に流るゝ故畧す。(三木生)



運動部報

自分は麼うした事を平素耳にし又体験もする。それは自分が

より已上運動家である爲ではない。即ち「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」の語だ。而もそれが事實である事は誰も異議は無からう。と云ふて自分は無暗矢鱈、盲目的に運動を誇張するものでもない、只今普通しての大政治家、大企業家、偉人賢者の如きものは必ず健全なる精神を以て、各國家、社會に望んだものに相異なる。健全なる肉体の保持者こそ立派な精神の所有者だ。と云へば或者は「否々」と才士多病を力説するものがあるかも知れぬ、慥かにある。然しそれは一般ののもので無く只二、三の者を指すに過ぎぬ。而もそれが運動を餘り理解しない往時のものである事は言を待たない。今や社會の文化は言語に絶した大發展を示してゐる、而も運動そのものは人智の進歩と共に並行に進んで行く。蓋し文明の國程運動熱は旺盛である而して運動家殊に吾等の如き學生スポーツマンは運動の佳なる事を知るさ同時に「過度」の二字を知らなくてはならぬ。過度とは云ふ迄も無く度を過す事で、其爲學年末におもはしからぬ結果になつたり、又過度の運動の結果は思はぬ病に襲はれ身体を害する事も多くある。麼うした人々には未だ充分に過度の二字が味はれてゐない。

要するに吾等學生は勉強の餘暇、而も其の運動時間を決めるさ云ふ事は健全なる精神を宿す上に於て最も必要である。

茲二、三年の中に祖山にも麼うした運動の理解者が續々出て熱心なる運動家が著るしく増加した事は將來より良き社會建設の爲め日蓮主義を喧傳し、從來の惡思想を一掃する使命を帯び

た祖山二百の學徒には喜ばしき事ではなくてはならぬ。而も其運動競技に於ては各部共發達の域に向ひつゝある事は勿論である春秋二季の大會には今更ら乍ら驚嘆せざるを禁じ得ないシーンもある。

吾が通動部はA、庭球部。B、劍道部。C、弓術部の三部より成つてゐる。今左に部分けして簡単に説明を加ふれば、

A、庭球部 當部は約三、四十名の所謂テニスマンがあり随分盛大である。悲しい事にニートが一ヶ所丈けしかないのので往々練習者の意に添はぬ事は残念だ。此の六月初旬に甲府市より奥山治義氏一行が來詣し、そして練習して下さつた事は感謝に絶へむ、時々麼うした外部よりの刺激もあるので嬉しい。

B、劍道部 當部は是れ又四十名の會員を有し一昨年二段加藤君の去るに及んで一時落歎してゐたが、最近筒井君を迎へ清瀬、大橋、松永の諸君一級に、二級に三名、三級に三名、四級に六名、五級に四名、六級に三名、七級に六名の昇級者を本年春季大會の際出し、猛者は逐次排出するであらう。當部に於て最も感謝すべき事は身延小學校の次席訓導三段小野正夫氏の熱心なる御教導である、祖山の劍道は同氏に依り中興せられたと云ふても恐らく過言で無からう、新校舍建設と共に道場が出来た事は一層の盛況を示す事であらう。

C、弓術部 當部は今僅か十名の會員に過ぎないが未だ學生の多くが充分此部に對して理解がないらしい。然し中には遠藤君、吉川君、黒崎君の如き目錄已上の人々もある、運動場の狭

い爲め練習場の造られない事は遺憾に思ふ、其内良い地所を見付け完全な射的場を作り、他の二部に遜色無き發展を期そう。最後に自分は此の稿を終るに當り、特に吾校庭球部獎勵の爲め、甲府市和田平町奥山治義氏のボール一箱寄贈せられし事を衷心より謝禮す。

運動せざるものは墮性に陥り安く、心に眞の快樂、要するに天真爛漫たる事無くして常に幽鬱性となる、規律正しき運動は前述の如く心身を壯健にする。宜敷從來の否運動家は讀ふて各部の何れにでも入會せられ、以て活潑に、以て意氣ある生活をなし人生の幸福を得られん事を切望す。(吉田生)



文學部報

時代は刻一刻に進轉し、文化の發展科學の進歩、その歸趣する所を知らない。歐米の文物を入れて後の日本、世界の向上諸機關の發明には驚くの外ない、これらあらゆる諸機關の發達は實に人生をして平等に幸福に、自由に惠ませたいのが本義である。少くとも御互人類をして幸福ならしめんが爲に、整ひ造られつ行きつあるのである。

然らばこれらによつて果して人類が眞の幸福たり得るか！そは拙筆にセイ言するまでもないほど亂用され一面反比例し世

を擧げて混亂、亂世遂に國家を根底より覆さんとする主義へ益々深刻に且堅實に、而も津々浦々に浸入した。

今にして思想善導せずんば、とは政府の資を投じて設けつゝある所以である。然らばこれによつて眞に善導し得るか、と眺める時吾々の責任の如何に重大であるかぞ窺れる。と同時に思想の惡化は吾々の罪であるを謂ひ得る。明治維新のあの大業も國体眞に絶叫された人によつて遂に遂げられた。詳の歴史の時代も又然りである。斯く思ふと如何に社會思想の充分なる研究、彼らに對する勇猛精進の研究が必要であるか！眞摯なる研究が必要であると同時に、佛教釋尊の根本精神を以つて國民思想吾人類思想の根底とすべしと絶叫した、日蓮上人の教へを理解させ信仰させる我々若人の双肩の責任の甚大さが胸にヒシく迫る。

茲に於て長らく中止の棲神を發刊し御互の意見を發表し、交換し諸君の努力を希ふ次第です。終りに校正の不備編輯の不振とな矣々も深謝すると同時に、左記書籍雜誌御贈與下されし諸氏に厚く感謝する次第である。

社會事業研究	岡島伊八殿
大阪毎日新聞	全
天業民報	天業民報社殿
身延教報	身延教報社殿
立正	高杉立正社殿
覺醒	大阪覺醒園殿